

令和3年度
学校評価書(学年末)

愛南町立御荘中学校



愛南町立御荘中学校 学校評価公開シート その1

令和3年度学年末(1月)実施

【評価基準】 A:目標を達成 B:8割程度達成 C:6割程度達成 D:C判定以下

重点目標	指標No.	キーワード	評価指標及び目標値 (期待される姿)	評定 (比較)	考察(◇)及び改善方策(◆)	評価アンケート	4	3	2	1	?	%	4・3の割合		
													0	50	90
I 個を大切に した生徒指導 の充実	①	いじめ・不登校防止	いじめ・不登校の防止や解消に向けた教育活動が実践されている。	中間期 A	◇回答の肯定率が生徒は9割、教職員が10割と目標値に達しているため、評定をAとした。しかし、生徒の回答に評価2・1があるので、まだ十分とは言えない。また、不登校(30日以上欠席)の生徒が昨年度と比較して増加傾向にあり、今後も増えることが懸念される。全校体制での対応と家庭との連携の強化が必要である。	生徒2-3	67	26	6	1	0	93			
			【目標値】 生徒・保護者・教職員の9割以上が肯定	学年末 A	◆いじめ対応では、毎月実施の「学校生活アンケート」や「心と体の健康チェックカード」による実態把握と個別の対応に継続して取り組んでいく。不登校生徒については、引き続き養護教諭やSC、SSWと連携した相談体制を整え、生徒や家庭の不安を取り除いていく。また端末を利用した授業への参加等、学習面への支援を促すなど、学年部を中心にきめ細かな対応をしていく。	〈自己評価アンケート以外の評価材料〉 ・学校生活アンケート ・教育相談による情報									
	②	楽しい学校生活	教師と生徒、生徒相互の好ましい人間関係・信頼関係が育まれ、生徒は楽しく学校生活を送っている。	中間期 A	◇回答の肯定率が生徒が9割となり、中間期と比較して良好な傾向にある。また、保護者は9割、教職員は10割と目標に達しているため、評定をAとした。2学期は学校行事を中心に充実した活動ができ、好ましい人間関係を構築することができたと考えられる。	生徒1-1	65	25	7	3	0	90			
			【目標値】 生徒・保護者・教職員の8割以上が肯定	学年末 A	◆全体の数値を見ると、生徒、保護者ともに良好な傾向にあるが、生徒の回答に評価2・1が1割ある。生徒全員が楽しい学校生活を送ることができるよう、個別に対応をしていく必要がある。日々の授業や行事、部活動の中で個々の生徒に目を配り、一人一人に役割を持たせることで、自己有用感を味わわせる努力をしていく。	保護者1	50	44	5	1	0	94			
	③	生徒の主体性を生かす活動	生徒の主体性を生かした、生徒会活動や学校行事が実践されている。	中間期 A	◇生徒・保護者・教職員の8割以上が肯定しているため、評定をAとした。評価4(全くそう思う)の割合が48%から56%に伸びており、生徒会活動や学校行事に自ら前向きに取り組めた生徒が増えていると考えられる。アンケートの実施がスパルタスロン後であったことを考えても、生徒の充実感が高かったことが伺える。2学期は、生徒会執行部や3年生のリーダーが主体的に行事に関わり、全体を盛り上げる姿が多く見られた。	生徒1-10	56	30	11	3	0	86			
			【目標値】 生徒・保護者・教職員の8割以上が肯定	学年末 A	◆引き続き、企画会・職員会等で教職員が事前に話し合い、計画案を立てることで、生徒の自主的・主体的な活動を支える体制を整えていく。2学期は、生徒会執行部を始めとした3年生のリーダーが育ったと感じる。今後も、自分たちで学校行事を作り上げたという達成感を味わわせることのできる行事の企画・運営を行っていくことが大切である。	保護者6	33	61	5	1	18	94			
						教職員4-1	85	15	0	0	0	100			
						〈自己評価アンケート以外の評価材料〉 ・各行事後のアンケート									

【学校運営協議会における意見・提案等】

- 基本的には、取組ができていると思う。ただ、個別への対応(個人相談)等と保護者への働きかけが大切である。今後関係生徒の保護者への協力と理解が課題となると考える。基本的に生活習慣は家庭教育の問題だと思う。PTAを通して対応を検討してはどうだろうか。
- 昨年に引き続き、コロナ感染対策をとりながらの学校運営は大変だと思います。そのような中で、今年度はかなりの行事ができたということは、保護者の立場から感謝いたします。保護者の仕事によっては2年経った今も子供にもかなりの我慢を強いているのではないかと思います。ある日突然爆発してしまわないように、心の中の不満をガス抜きをするために、これからも活発な行事運営をお願いいたします。



愛南町立御荘中学校 学校評価公開シート その2

令和3年度学年末(1月)実施

【評価基準】 A:目標を達成 B:8割程度達成 C:6割程度達成 D:C判定以下

重点目標	指標No.	キーワード	評価指標及び目標値 (期待される姿)	評定 (比較)	考察(◇)及び改善方策(◆)	評価アンケート	4・3の割合												
							4	3	2	1	?	%	0	50	90				
II 確かな学力の定着と向上	④	主体的・対話的で深い学び	主体的・対話的で深い学びを目指す、ねらいを明確にした分かる授業を実践している。	中間期 A	◇教職員は100%、生徒は約9割が肯定的な回答であったためA判定とした。生徒は若干下がったものの、教職員の評価は向上した。各教科でジグソー法を取り入れたり、ICTを活用した対話的な活動に取り組んだり、研究授業や研修を通して教職員の実践が進んでいる。対話的な活動の基盤となる基礎学力の定着を目指して、ドリルや小テスト等にも取り組んできた。	教職員2-1	35	65	0	0	0	100							
			【目標値】 教職員・生徒の8割以上が肯定	学年末 A	◆ICTの活用によって、一人ひとりが自分の考えを表現したり、資料に基づいて説明したりする場面が増えたが、理由や根拠を明確にして意見を述べることに依然として課題がある。全国学力・学習状況調査において全国平均を大きく上回った3年生でさえ、その点は改善の余地がある。今後も継続して対話的な学習を工夫し、学力の向上を図っていく。	〈自己評価アンケート以外の評価材料〉 ・研究授業や各種研修への取組													
	⑤	主体的な研修・自己研鑽	研修や自己研鑽に主体的に取り組み、生徒一人一人に「学びに向かう力」を育て、きめ細かな学習指導、基礎的・基本的な事項の定着を図っている。	中間期 A	◇ICT機器の活用に努めているだけでなく、よりよい活用法を探って研修や自己研鑽に、継続して取り組んでいる。それにより、生徒の学習意欲を喚起するとともに、生徒にとって分かりやすい授業が展開されていると考える。基礎的・基本的な学習については、各教科で小テストの実施や個別に再テストの実施により、定着と向上に努めてきた。	教職員1-2	35	60	5	0	0	95							
			【目標値】 教職員の8割以上が肯定	学年末 A	◆ICT機器のより効果的な活用の模索を継続して行う。生徒の「学びに向かう力」を育てるために、端末を利用した効果的な家庭学習の課題の与え方などについて教職員でさらに協議を続け、改善していく必要がある。また、端末による生徒一人一人の学習履歴や振り返りを次のステップに生かす方法についても各自が試行錯誤しながら、情報交換していく。	〈自己評価アンケート以外の評価材料〉 ・研究授業や各種研修への取組 ・各教科での基礎的・基本的な事項を図る取組													
	⑥	家庭学習習慣	主体的な家庭学習の習慣が身に付いている。	中間期 B	◇生徒・保護者ともに8割に達していないためB判定とした。各学年共通の自主学習ノートの取組状況を見ても、所要時間と内容が伴っていない生徒や学習内容の定着につながっていない生徒もあり、取組方にも個人差がある。家庭学習の内容の充実を図るために、定期的な振り返りや取組方への指導が必要である。	生徒1-2	35	42	15	8	0	77							
			【目標値】 生徒・保護者の8割以上が肯定	学年末 B	◆引き続き各教科の宿題+自主学習ノートの取組により、家庭学習の習慣化を図っていく必要がある。取組状況について学担や学習支援員が把握し、個別に指導が必要である。また、取組の手本となるノートを紹介したり、学習委員の集会等で全校に呼びかけたりして、自主学習ノートの充実を図りたい。また、保護者にも家庭学習の状況を見守っていただけるよう協力を呼びかける必要がある。	保護者3	28	42	26	5	0	69							
						〈自己評価アンケート以外の評価材料〉 ・家庭学習時間調査 ・自主学習ノートの取組													

【学校運営協議会における意見・提案等】

○ 学力の定着には、地道な勉強と継続だと思います。子供たちには今しか見えていません。保護者が少し先の高校・大学・仕事と、今だけではなく将来をイメージできるように話をしているかどうかで子供たちの学習意欲は変わってきます。ですが、保護者は自分が経験してきたことぐらいまでのことしか子供に話すことはできません。将来なりたい自分の選択肢が増えるように、先生には少し先のことを語ってほしいです。資料にもあったように、奨学金のことも生徒に積極的に話してほしいです。プリント配付のみでは、教育に無関心な保護者は見えません。でも、それでは子供の進路に限りができます。自分が努力すれば道は開けるかもしれないということを語ってほしいです。そしてそれは中学に入学してすぐにでも。奨学金のプリント配付が中学3年生になってからでは遅いのです。子供たちは家庭の経済状況を案外分かっています。学業奨学生や給付型奨学金、学費免除等の情報を周知させて、将来の選択肢が増えることを望みます。



愛南町立御荘中学校 学校評価公開シート その3

令和3年度学年末(1月)実施

【評価基準】 A:目標を達成 B:8割程度達成 C:6割程度達成 D:C判定以下

重点目標	指標No.	キーワード	評価指標及び目標値 (期待される姿)	評定 (比較)	考察(◇)及び改善方策(◆)	評価アンケート	4	3	2	1	?	%	4・3の割合		
													0	50	90
Ⅲ 心の教育の推進	⑦	中学生らしいよい挨拶	時と場に応じた気持ちのよい挨拶ができ、中学生らしい言動がとれる生徒が育っている。	中間期 A	◇全ての評価項目で肯定率が8割を超えているため、評定をAとしたが、4と回答した割合が中間期に比べて、保護者は増加したが教職員は減少している。全校やブロック、部活動などの集団ではよくできているが、登校時の挨拶等、個人差がある。	教職員3-3	10	80	10	0	0	90			
			【目標値】 教職員・生徒・保護者・地域の8割以上が肯定	学年末 A	◆生徒指導主事や学級担任、部活動顧問から挨拶の意義についての話をしたり、各集団で話し合うことで、全校生徒が自分なりのよりよい挨拶について意識できるようにしたい。集団の中で挨拶によってつながっていく実践を続けていくとともに、個人でも生徒、教職員ともに挨拶を軸としてコミュニケーションを深めていけるように取り組んでいく。	〈自己評価アンケート以外の評価材料〉 ・生徒の日常の様子 ・生徒の挨拶運動の状況									
	⑧	人権尊重・心の通い合い	心が通い合い、互いの人格や人権を尊重した学校づくりがなされている。	中間期 A	◇中間期に続き、生徒・保護者ともに肯定率が8割を超えており、A評定とした。継続して、「あったかほっこりエピソード」や「いじめ追放宣言」、「いじめ対策委員会」等を行い、人権意識の向上を目指してきた。いじめ対策委員会では、いじめにつながるようなことが、人権委員の行動により解決に向かったという事案が出されるなど、人権意識が高い生徒もいる。ただ、まだ課題も出ているので、個別の指導等も必要である。保護者の？がまだ37あり、保護者への啓発が不十分である。	生徒1-9	40	46	10	4	0	86			
			【目標値】 生徒・保護者の8割以上が肯定	学年末 A	◆人権委員会が中心となって取り組んでいる「あったかほっこりエピソード」の掲示や放送、心の教育部会が取り組んでいる「ありがとうメッセージ」を継続し、人権意識の向上に努めた。ただ、頻繁な活動にはなっていないところもあるので改善が必要。中間期から継続して「教師からのありがとうメッセージ」も行ったが、これも改善が必要。学校全体でそれぞれが認め合い、感謝し合い、尊重される環境・雰囲気づくりに取り組んでいく。	保護者7	29	62	9	0	37	91			
	⑨	道徳教育の充実	道徳科の授業の充実が図られ、対話のある学びを通して、優しい心や道徳的実践力が育てられている。	中間期 A	◇中間期に続き生徒・保護者ともに肯定率が高く、評価をAとした。後期は学校行事が多く、学級や学年、その枠を超えた生徒同士の関りの中で見えてくる「思いやり・感謝」「勤労」「向上心・個性の伸長」を感じたためではないだろうか。また、自分の考えをまとめたり、級友の考えを知ったり、比較したりすることが学習用端末を使用することでより「考え・議論する道徳」の実践につながったと考えられる。	教職員6-1	30	70	0	0	0	100			
			【目標値】 教職員・生徒の8割以上が肯定	学年末 A	◆評価はAとしたものの、生徒の2・1の評価は変わっていない。道徳の時間に考えたことが、学習後の生活にどのようにつながるかを考えさせていくことも必要である。	生徒2-5	58	33	7	2	0	91			
						〈自己評価アンケート以外の評価材料〉 ・生徒の日常の言動や変容									

【学校運営協議会における意見・提案等】

- 個々の存在を認め合う努力をする先生方と生徒たちの関係性がとても素敵だと思います。この関係性を親子間でも、もっともっと共有できたらいいと思う。
- 目標を達成できていて素晴らしいと思う。今後、少数意見を追求して改善していく事も大切だと思う。
- 「あったかほっこりエピソード」がどんなものか見てみたいと思った。文集にして配付したら、読んだ人が皆「ほっこり」すると思う。



愛南町立御荘中学校 学校評価公開シート その4

令和3年度学年末(1月)実施

【評価基準】 A:目標を達成 B:8割程度達成 C:6割程度達成 D:C判定以下

重点目標	指標No.	キーワード	評価指標及び目標値 (期待される姿)	評定 (比較)	考察(◇)及び改善方策(◆)	評価アンケート	4	3	2	1	?	%	4・3の割合								
													0	50	90						
IV 健やかな体の育成と安全教育の推進	⑩	体力の向上	授業や部活動を通して、運動の習慣化と体力向上が図られている。	中間期	◇保健体育科の授業の中で、毎時間体力づくりの時間を設けている。しかし、3年生にとっては部活動が終了してからの運動量が少ないことで、8割に満たない結果になったと考えられる。教職員や保護者の結果を見れば、9割を超える数値であるため、取組は継続していくことでよいと感じる。	教職員7-1	25	65	10	0	0	90									
				学年末		◆3年生の体力づくりについては、保健体育科の授業の中で特別に行った。現在だけでなく将来を見据えた体力づくりを自己が計画して行ったり、周囲の人間を巻き込んで行ったりと、これまでとは違った方法を提示した。このような運動への取り組み方の改善方法をどんどん提示できれば、運動部ではない生徒も無理なく運動に親しめるのではないかと考える。	生徒1-4	36	41	17	6	0	77								
		保護者8	40	51	9	0	16	91													
			【目標値】 教職員・生徒の8割以上が肯定	A		〈自己評価アンケート以外の評価材料〉 ・新体力テストの結果															
⑪	安全・安心な学校づくり	安全・防災教育の改善と充実を図り、生徒の命を守るためのあらゆる手立てを講じている。	安全・防災教育の改善と充実を図り、生徒の命を守るためのあらゆる手立てを講じている。	中間期	◇教職員は100%の評価である。避難訓練のパターンであるとか、第2避難場所の工夫であるとか、進んでいるところを評価していると思われる。生徒も94%と高い数値である。ただし、1の評価の生徒がいることには着目すべきか。非常に高い意識を持っている生徒が多いだけに、まだまだ十分でないとする生徒がいてもおかしくないと考えられる。	生徒2-6	70	24	4	2	0	94									
				学年末		◆今年度は研究も含め、あらゆることを改善したり、バージョンアップしたりして進めてこられた。防災学習については、徐々に地域の方との関りも持てそうなので、さらに発展させらるるよう工夫していく。また、避難訓練も定期的に行い、あらゆる災害を想定したものにしていく。パターン化される部分と、臨機応変に対応する部分とのバランスを取れるような訓練にしていく。	教職員7-2	85	15	0	0	0	100								
			【目標値】 生徒・保護者・教職員の8割以上が肯定	A		〈自己評価アンケート以外の評価材料〉 ・毎月の避難訓練の様子 ・防災学習															
⑫	基本的な生活習慣の定着	生徒自身による「早寝・早起き・朝ごはん」等、基本的な生活習慣が定着している。	生徒自身による「早寝・早起き・朝ごはん」等、基本的な生活習慣が定着している。	中間期	◇保護者は8割以上の肯定があるが、生徒が8割に満たないため、評定をBとした。家庭での生活様式が夜型に変化していることが、保護者の肯定の割合がここ数年低くなっている原因の一つではないかと考えられる。毎月の健康チェックでも夜11時以降まで起きている生徒は4割と増えてきている。平日でのメディア使用の時間も長く、生活習慣の問題はもちろんだが、それ以外での問題も多く見られるようになってきている。	生徒1-7	44	34	17	5	0	78									
				学年末		◆メディアの使用については、学級活動や集会を通して生徒に考えさせることはできた。本校のルールを作り、守るための方策を考え実行しているが、なかなか成果は見られない。委員会や生徒会を中心に、反省を生かした新たな取組を考え実施していきたい。また、学校だけでは解決しにくい問題なので、保護者の協力を得られるような働きかけを工夫する必要がある。生活習慣改善のための個別的な働きかけは、今後もchromeを活用して継続していく。	保護者4	38	51	9	3	0	88								
			【目標値】 生徒・保護者の8割以上が肯定	B		〈自己評価アンケート以外の評価材料〉 ・生活チェックカードの結果															

【学校運営協議会における意見・提案等】

- 体力の向上についての取組は、とても良いと思う。継続した取組をお願いします。
- 防災教育では、意識レベルが高すぎばらしいと思います。多くの人の意見も参考にして災害に対する意識を心掛けておく事の指導はありがたいです。防災教育も含め、どんどんバージョンアップしていく御荘中生とても楽しみです。先生方のサポートも継続していただきながら生徒たちとともに「いのち」の意味を追求していただけたらありがたいです。
- 基本的な生活習慣については、小学生の時から言われ続けていることなので、これまでとは違った観点から生活習慣の大切さを考える時間があったらいいと思う。



愛南町立御荘中学校 学校評価公開シート その5

令和3年度学年末(1月)実施

【評価基準】 A:目標を達成 B:8割程度達成 C:6割程度達成 D:C判定以下

重点目標	指標No.	キーワード	評価指標及び目標値 (期待される姿)	評定 (比較)	考察(◇)及び改善方策(◆)	評価アンケート	4	3	2	1	?	%	4・3の割合							
							0	50	90											
V 家庭や地域との連携による特色ある学校づくり	⑬	地域とつながる教育	「人」や「仕事」など、地域とのつながりを生かした教育活動に工夫して取り組んでいる。	中間期 A	◇1学期に続き、コロナウイルス対策で、学校外でのボランティア活動などにはあまり参加できなかった。総合的な学習の時間の取組として、3年生は修学旅行や職場体験学習、2年生は福祉学習、1年生は集団宿泊研修を実施に向けて学習を行うことができ、概ね目標値を達成することができた。特に職場体験学習では、地域の方との交流を通して、愛南町のよさと働くことの大切さ、厳しさ、楽しさを実感することができた。	教職員4-2	15	70	15	0	0	85								
			【目標値】 教職員・保護者・地域の8割以上が肯定	学年末 A	◆コロナ禍ではあるが、ICT機器を活用したオンラインでの交流など、様々な教育活動で地域の人や多様な人材とを結び付ける工夫をしていく必要がある。また、生徒が学校の授業や様々な体験で学んだことを地域に発信できる機会を模索し、地域とのつながりを深めることが大切である。	地域2-2	30	68	2	0	18	97								
	〈自己評価アンケート以外の評価材料〉 ・体験学習後の生徒の感想等																			
⑭	特別支援教育の充実	特別支援教育の充実が図られ、関係機関との連携を図った教育的ニーズ対応した教育が実践されている。	中間期 A	◇保護者、教職員ともに目標値を上回っているため、評定をAとした。今年度は「通園事業おれんじくらぶ」や小学校との連携を通して、授業や行事に対する生徒の意欲の向上や学びの広がりが見られた。そして、幼い頃から保護者と共に生徒の成長を見守ってきた関係機関と連携することで、教職員が生徒を見る視点に変化が生まれた。様々な視点を持つ人々がつながり、それぞれが見た生徒たちの姿を伝え合うことで、共に感動し、広い視野で生徒の成長を共に願い、活動をつないでいくことができた。	保護者7	29	62	9	0	37	91									
		【目標値】 保護者・教職員の8割以上が肯定	学年末 A	◆評定はAとしたが、保護者の「？」評価が保護者全体の37%であった。今後も、継続して合理的配慮の視点から誰にでも分かりやすい授業づくりを目指す必要がある。そして、それらの取組やそこから見えてきた成果や課題を、通信等の形で伝えることが今後の課題であるとする。また、卒業後も全ての生徒が自分の良さを生かしながら生活していける地域づくりを目指して、関係機関との連携を図っていくことが必要である。	教職員5-1	50	45	5	0	0	95									
〈自己評価アンケート以外の評価材料〉 ・生徒の日常生活の様子等																				
⑮	開かれた学校づくり	保護者や地域の意見・願いを幅広く聞くとともに、学校の取組や生徒の様子を積極的に公開するなどして、家庭・地域と連携した開かれた学校づくりに努めている。	中間期 A	◇年間を通して、保護者・地域の9割以上が肯定的回答を得ており、評定をAとした。学校だよりを中心に、様々な通信を通して学校とのつながりを強化していることや、HPの更新、クローズドブックによる全校生徒への連絡・アンケート等の活用で、コミュニケーション体制が取れていることなどが、保護者・地域ともに肯定的解答に表れていると思われる。	保護者9	43	52	5	0	3	95									
		【目標値】 ホームページ、各種たよりの保護者の閲覧率が8割以上	学年末 A	◆微増ではあるが、保護者・地域ともに中間期よりも更に高い評価を得ている。今後は、学校行事や生徒会活動、部活動の様子を発信するだけでなく、避難訓練など地域と連携した防災学習にも視点を広げ、教育活動全般の取組を幅広く発信していく。また、各種たよりの発行やHPの更新を継続させながら、保護者・地域との取組の強化に向けて、どのような方法があるか模索しながら、更に家庭や地域との連携を図っていく。	地域2-3	50	50	0	0	2	100									
〈自己評価アンケート以外の評価材料〉 ・地域との連携の状況																				

【学校運営協議会における意見・提案等】

- 特に職場体験学習や地域の防災学習会などに生徒達が参加するなど積極的に地域と連携を図る姿勢は高く評価できると思う。今後は、地域や学校との防災協力体制の整備等について公民館も一緒になって取り組んでいければと思う。
- コロナ禍でありながらも、工夫しながら地域の方との交流やコミュニケーションに取り組んでおられると思う。栄町で行った防災学習にも御荘中生に数名参加いただき、受付のお手伝いや救急法の演習など積極的に取り組んでいただいた。社会福祉協議会としましても、引き続き地域活動とのコーディネートが行えるよう取り組んでいきたいと思う。